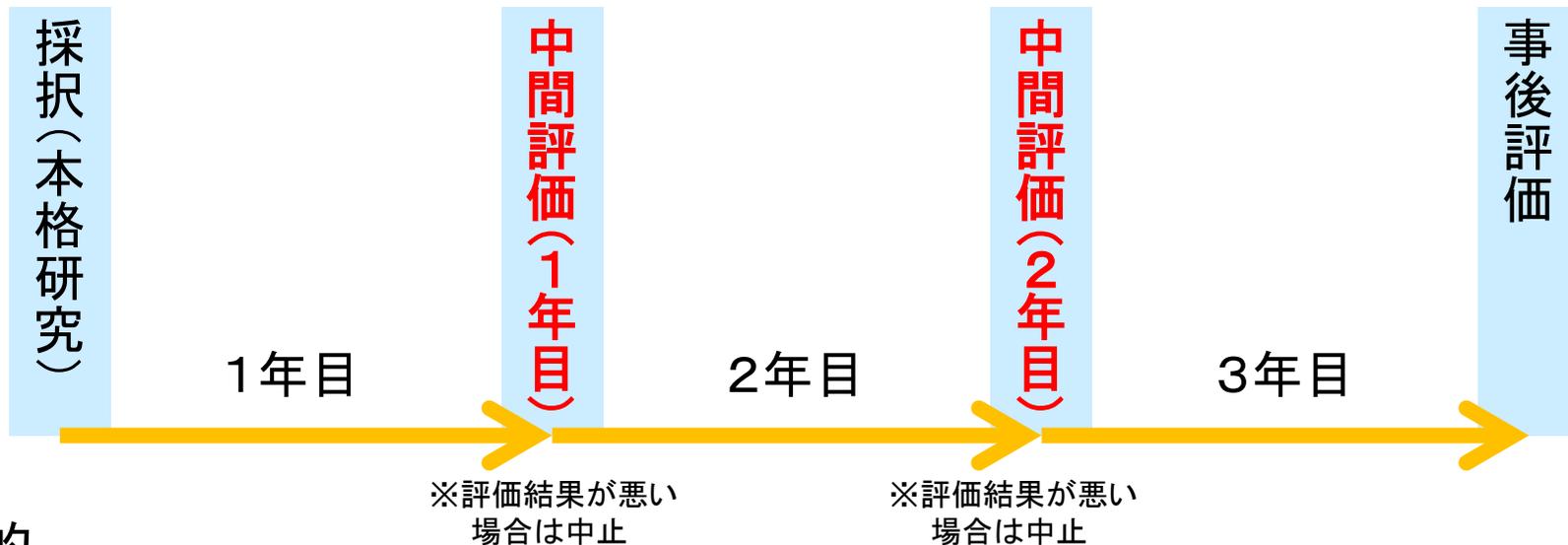


# 令和5年度継続課題の中間評価の実施方針案について (概要)

# 本格研究の中間評価の位置付け及び目的

## ■ 位置付け

本格研究の採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



## ■ 目的

### 中間評価(本格研究)

研究の見通しや進捗を評価し、以下を図る。

- ・ 研究の適切な実施
- ・ 次年度以降の研究費の適正化

# 中間評価の手順(スケジュール)(案)

## ① 研究状況報告書の作成

(9月上旬～12月下旬)

### ① 書類の事前査読(書面による評価)

(～1月下旬)

- 事前査読を実施(事前査読結果の提出は任意)
- 委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡。

### ② 研究評価会の開催(ヒアリングによる評価)

(2月上旬頃)

- 分科会毎に研究評価会を開催(1課題あたりの時間は、報告10分、質疑10分。4～5時間程度)
- 報告・質疑を踏まえ、分科会各委員は各課題の中間評価シートを作成。
- 各委員からの中間評価シートを基に、中間評価(案)を作成するための審議を実施。

### ③ 中間評価(案)の作成

(～2月中旬)

研究評価会后、分科会長は中間評価(案)を作成。

### ④ 中間評価の決定

(2月下旬頃)

新道路技術会議において中間評価(案)を審議し、合議により中間評価を決定。

### ⑤ 中間評価結果の通知及び公表

(3月上旬頃)

- 研究代表者に書面にて通知
- 道路局ホームページ等において、研究状況報告書、研究概要と併せて公表

# 中間評価の視点及び基準(案)

## ■ 評価の視点

1年目の研究	
中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制(研究遂行における研究代表者の主体性の確保を含め)が適切となっているか。
研究の見通し	研究の推進にあたり、研究目標の設定、研究計画、実施方法、体制、共同研究者の役割分担が明確になっているか。

2年目の研究	
中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか(研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか)。また、研究成果の活用方策が明確になっているか。

## ■ 評価の基準

評点	区分	説明
A	現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B	現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C	研究計画を修正の上、推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

# 令和5年度中間評価 対象研究テーマ及び担当委員(ソフト分科会)(案)

No.	研究期間	委託研究テーマ(本格研究)	研究代表者	タイプ	テーマ	評価分科会	
						分科会	委員
①	R4-R6	道路整備による走行時間短縮便益等を把握する手法についての技術研究開発	東京大学大学院 教授 加藤 浩徳	IV	-	ソフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト分科会委員</li> <li>・道路局担当行政官</li> <li>・国総研担当研究官</li> </ul>
②	R5-R7	デジタルツインによる冬期道路交通マネジメントシステムの技術開発	北海道大学大学院 准教授 高橋 翔	-	-		

# 令和5年度中間評価 対象研究テーマ及び担当委員(ハード分科会)(案)

No.	研究期間	委託研究テーマ(本格研究)	研究代表者	タイプ	テーマ	評価分科会	
						分科会	委員
①	R3(FS)-R6	データ同化をベースとした高耐久フライアッシュコンクリート舗装についての技術研究開発	日本大学 教授 岩城一郎	I	4	ハード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード分科会委員</li> <li>・道路局担当行政官</li> <li>・国総研担当研究官</li> </ul>
②	R4(FS)-R6	リサイクル炭素繊維のコンクリート構造物用補強材への応用	岐阜大学 教授 國枝 稔	II	2		
③	R5-R7	局地的大雨に対応した事前通行規制基準の『時間的』『空間的』高度化	京都大学大学院 教授 岸田 潔	-	-		
④	R5-R7	衝撃履歴を受ける落石防護土堤の残存耐力評価法と土を利活用した合理的な復旧・補強の技術研究開発	名古屋工業大学大学院 教授 前田 健一	-	-		
⑤	R5-R6	劣化イメージング技術と磁気・電気化学的技術の融合によるコンクリート橋梁の維持管理システムの開発	香川大学 准教授 岡崎 慎一郎	-	-		

# 【参考】ソフト研究評価会（中間評価）評価担当研究テーマ

No.	タイプ	研究期間	研究課題名とその概要		研究代表者	中間評価結果
2022-1	IV	R4-R6 (予定)	課題名	道路整備による走行時間短縮便益等を把握する手法についての技術研究開発	東京大学大学院 教授 加藤 浩徳	A (R4中間)
			概要	我が国の道路事業を対象に、事業評価手法の改善を目指し、時間価値等の原単位の設定手法および交通量推計の手法について検討し、我が国の事情に見合った新たな事業評価手法の提案を行うことを目的とする。		
2023-1	-	R5-R7 (予定)	課題名	デジタルツインによる冬期道路交通マネジメントシステムの技術開発	北海道大学 大学院 准教授 高橋 翔	
			概要	冬期道路環境をエッジコンピュータにより低通信量かつリアルタイムに収集しつつ、AI を活用してデジタルツインを構築し、道路交通マネジメントに反映することにより、冬期の人やモノの移動にかかる負担軽減、効率化を実現する。		

## 【参考】研究継続の妥当性評価<中間評価>

A：現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B：現行のとおり推進（指摘事項有り）	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C：研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D：中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

# 【参考】ハード研究評価会（中間評価）評価担当研究テーマ（1／2）

No.	タイプ	研究期間	研究課題名とその概要		研究代表者	中間・FS 評価結果
2021-6	I	R3(FS)-R6 (予定)	課題名	データ同化をベースとした高耐久フライアッシュコンクリート舗装についての技術研究開発	日本大学 教授 岩城 一郎	A (R4中間)
			概要	本研究は、設計供用期間 100 年を満足する舗装の実現を目指し、高度な実験と解析を駆使したデータ同化による性能評価に基づき、フライアッシュを利活用した高耐久コンクリート舗装の開発と実装を行うものである。		
2022-6	II	R4(FS)-R6 (予定)	課題名	リサイクル炭素繊維のコンクリート構造物用補強材への応用	岐阜大学 教授 國枝 稔	A (R4FS)
			概要	自動車産業、航空機産業、洋上風力発電事業などで用いられる炭素繊維（CFRP）から取り出されたリサイクル炭素繊維を用い、コンクリート構造物の補修に用いる補強材を開発する。		
2023-2	-	R5-R7 (予定)	課題名	局地的大雨に対応した事前通行規制基準の『時間的』・『空間的』高度化	京都大学大学院 教授 岸田 潔	/
			概要	事前通行規制区間において、素因、誘因、崩壊事例により前処理した衛星解析から「潜在的危険斜面」の領域を可視化する技術を開発し、監視レベルを階層化する。「潜在的危険斜面」に対する浸透流・円弧滑り統合解析結果を学習した AI により規制判断を高度化する。		
2023-3	-	R5-R7 (予定)	課題名	衝撃履歴を受ける落石防護土堤の残存耐力評価法と土を利活用した合理的な復旧・補強の技術研究開発	名古屋工業大学 大学院 教授 前田 健一	/
			概要	堅牢でしなやかな環境調和型の道路斜面防災対策の実現に向けて、低コストで施工性・長期耐久性・復旧性に優れる落石防護土堤に着目し、落石捕捉後の残存耐力評価手法・土を利活用した補強技術・復旧時の技術選定方法に関する技術研究開発を行う。		
2023-4	-	R5-R6 (予定)	課題名	劣化イメージング技術と磁気・電気化学的技術の融合によるコンクリート橋梁の維持管理システムの開発	香川大学 准教授 岡崎 慎一郎	/
			概要	RC や PC 橋梁等コンクリート構造物の劣化懸念箇所のイメージング技術、内部の鋼材の腐食速度評価、鋼材の破断の有無の検知といった 3 つの手法を融合させることで橋梁の高度な維持管理システムを開発し、国内外の実装を目標とする。		

# 【参考】ハード研究評価会（中間評価）評価担当研究テーマ（2／2）

## 【参考】研究継続の妥当性評価＜中間評価＞

A：現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B：現行のとおり推進（指摘事項有り）	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C：研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D：中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

## 【参考】研究継続の妥当性評価＜実行可能性調査（FS）評価＞

A：新規課題として採択	実現性は十分あると評価する。よって、次年度から新規課題として採択し、引き続き研究を継続する。
B：新規課題として採択（指摘事項有り）	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規課題として採択し、引き続き研究を継続する。
D：不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。